

～ 関典子ダンス公演『牧神とニンフの午後』によせて～
薄井憲二バレエ・コレクション常設展

vol. 88

『牧神の午後』と『瀕死の白鳥』

会期／2022年1月13日(木)～2月22日(火)
(※休館日はwebでご確認ください)

企画・監修／関典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)
構成・執筆／若林絵美(同アシスタント・キュレーター)

2022年2月12日、伊丹アイフォニックホールにて開催される関典子ダンス公演では、『牧神とニンフの午後』、『瀕死の白鳥』、『動物の謝肉祭』の生演奏での上演と共に、薄井憲二バレエ・コレクションより、複写パネルのロビー展示を同時開催いたします。本展では、その現物資料をご覧ください。

『牧神の午後』

『牧神の午後』は1909～1929年の20年間のみ存在し、革新的なステージで一世を風靡したセルゲイ・ディアギレフ率いる「バレエ・リュス」の看板ダンサー、ワツラフ・ニジンスキーが初めて振付・主演した作品(1912年)です。その振付は古典的なバレエのステップを全面的に排除した、極めて独創的なものでありました。華麗な跳躍が大きな魅力だったニジンスキーが、本作品では小川を跳び越える小さな跳躍を一度のみ行い、ギリシャの壺絵をモチーフにしたといわれる二次元的な振付を取り入れ、舞台上のダンサーは常に観客に対して横を向いたまま、ゆったりと左右に動いたといえます。ラストの露骨な性の描写はスキャンダルにもなりました。

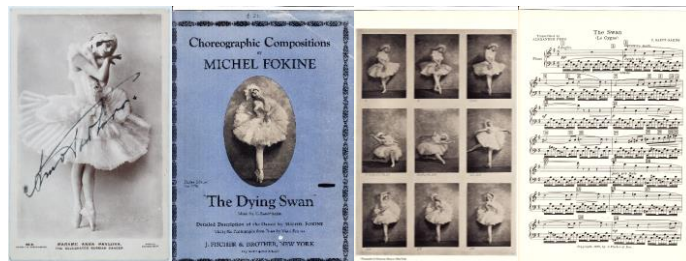
当コレクションのキュレーター関典子は、最新作『牧神とニンフの午後』の創作にあたり、以下のように述べています。——ニジンスキーが、これほどまでに伝説的に語り継がれているのはなぜか。その実態に迫るべく、残された資料の解読を試みた。彼の身体性や動きの特性に関する記述を再現し、絵画や写真のポーズを真似／模写するなど、追体験することに努めたのだ。そうした過去の資料と今を生きる自身の身体の交点から、本作品は生まれた。ニジンスキーの処女作かつ代表作『牧神の午後』と日本が誇る「舞踏(Butoh)」の間に接点があることはしばしば指摘されているが、今回、それを再発見する契機ともなった。——



『瀕死の白鳥』

『瀕死の白鳥』は、ニジンスキーと同様、バレエ・リュスのスターだったアンナ・パヴロワのためにミハイル・フォーキンがカミーユ・サン＝サーンスの組曲『動物の謝肉祭』第13曲「白鳥」に振り付けた作品です。パヴロワはその生涯でこの作品を約4000回演じています。湖に浮かぶ一羽の傷ついた白鳥が、生きようとして必死にもがき、やがて息絶えるまでを描いた約4分間の小品で、1905年にロシアのサンクトペテルブルクで初演されました。名作ゆえか、すぐさま世界中で様々なバレリーナが踊るようになりましたが、フォーキンは自身の作品が勝手に手を加えられ上演されることを危惧し、1925年に公式の舞踊譜を出版しました。妻ヴェラ・フォーキナがポーズを取った写真36点と楽譜、舞台上の軌跡を示す図にはそれぞれ番号がつけられ、いつ・どこで・どのような動きを行うべきかが明確に示されています。このフォーキンの舞踊譜に記された振付は、現在、一般に踊られている『瀕死の白鳥』の振付とは大きく異なります。

2月12日の関典子ダンス公演ではフォーキンの舞踊譜に基づくバレエ版を若林絵美が、コンテンポラリーダンス版を関典子が踊ります。



出展資料

- ◆ SB-08-14-17ws スクラップブック／『牧神の午後』記事／「ザ・スケッチ」誌／イギリス／1912年6月26日
- ◆ SC-67 舞踊譜／『瀕死の白鳥』／ミハイル・フォーキン、カミーユ・サン＝サーンス著／アメリカ／1925年
- ◆ PH-D-195-06ws 写真(サイン入り)／『瀕死の白鳥』／アンナ・パヴロワ／1920～1930年代

参考映像

- ◆ 関典子『瀕死の白鳥』
<https://youtu.be/vzBhhjgGjsM>
- ◆ 関典子『牧神とニンフの午後』
<https://youtu.be/BTIEfdDnDas>



公演情報

公演 | 関典子ダンス公演『牧神とニンフの午後』

(東りいたみホール Produce / 神戸大学創立120周年記念事業)

日時 | 2022年2月12日(土) 19:00 開演

会場 | 伊丹アイフォニックホール

予約 | <https://forms.gle/96goxzLrr56tkTerd7>



兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用